

北守谷・立沢地区の将来構造

本地区は、丘陵上の立沢の古くからの集落と大規模な工場用地、昭和 50 年代に土地区画整理事業により整備された計画的住宅団地で構成されています。常磐自動車道谷和原インターチェンジに近く、常総線新守谷駅を有するなど交通利便性が高く、昭和 50 年代後半から人口増加が続いています。一方、地区南部の立沢の集落地は樹林地を残す良好な自然的環境を有しています。都市の副次拠点である新守谷駅周辺・国道 294 号（都市計画道路取手守谷線）沿道、地域生活拠点である久保ヶ丘の文化会館周辺に地域の生活に資する都市機能の集積を図りつつ、良好な住宅地及び集落地の環境を守り、生かすまちづくりを進めていくことが必要です。

地区の目標

「豊かな生活文化を守り育むまちづくり」

- ・ 新守谷駅周辺・国道 294 号沿道へ地域生活を支える産業機能を集積します。
- ・ 良好な住宅地の環境とコミュニティを維持する住宅の更新や低未利用地活用を促進します。
- ・ 鬼怒川沿いの水と緑の美しい景観・環境を構成する農村集落地環境の保全・改善を進めます。

土地利用の骨格	地区南側の常磐自動車道に面した立沢の集落及びその周辺地区は、農業・自然環境を守るゾーンとして、自然環境の保全・活用と集落地環境の改善を図ります。
	地区の市街地は、新守谷駅南側で新市街地の開発整備を進めるとともに、住宅団地や一団の工業用地の良好な市街地環境の保全と都市機能の増進を図ります。
将来地区構造	土地利用の骨格
	交通の体系
活動や交流の拠点	その他
	活動や交流の拠点

■地区整備方針図

